

北海道弁護士会連合会定期大会記念シンポジウム

## 再生可能エネルギー―基地北海道

―北海道の新たななる可能性―

日時

2012  
7.20 金

AM9:00～AM12:00

AM 9:05 海外・道内視察報告  
AM 9:35 パネリスト プレゼンテーション  
AM10:35 パネルディスカッション

会場

ロイトン札幌 3F [ロイトンホールA・B]  
札幌市中央区北1条西11丁目1

入場無料

パネリスト

お お の り お  
大友 詔雄 氏 [自然エネルギー研究センター センター長]か し や ま ひ さ し  
梶山 恵司 氏 [富士通総研 主任研究員]す す さ と お る  
鈴木 享 氏 [NPO法人北海道グリーンファンド理事長]

昨年3月11日に発生した東日本大震災に起因する  
東京電力福島第一原子力発電所の事故は、

広範囲にわたって極めて深刻な放射能汚染をもたらしました。

これを機に、我が国のエネルギー政策についての根本的な見直しが迫られ、  
発電量の約29%を占める原子力発電からの脱却に関する議論を活性化させました。

そして、再生可能エネルギーへの国民的関心もかつてない程に高まっているところ、  
とりわけ私たちが暮らす北海道は、太陽光、風力、木質バイオマス(薪、チップ、ペレット)  
その他再生可能エネルギーの大きな潜在能力を秘めています。

そこで、本シンポジウムでは、エネルギー問題に詳しい専門家らを招き、  
再生可能エネルギー基地としての北海道の可能性を模索していきます。



# 北海道弁護士会連合会定期大会記念シンポジウム

## 再生可能エネルギー基地北海道

### — 北海道の新たな可能性 —

#### パネリスト紹介

**大友 詔雄** おおとも のりお

norio otomo

工学博士  
 (株)NERC(自然エネルギー研究センター) 代表取締役センター長  
 NPO北海道新エネルギー普及促進協会理事長  
 北海道木質ペレット推進協議会会長  
 近著「自然エネルギーが生み出す地域の雇用」(自治体研究社)では、自身が北海道内各地で進めてきた、地域資源である自然エネルギーの利活用による「地域内循環経済」の確立とその中心的役割を果たすエネルギー生産工場及び関連生産工場の建設の準備状況を紹介している。



**梶山 恵司** かじやま ひさし

hisashi kajiyama

外務省、ドイツ・チュービンゲン大学留学、日興リサーチセンターロンドン・フランクフルト、富士通総研経済研究所、経済同友会(富士通総研より出向)、規制改革会議専門委員  
 2009年9月より2011年10月まで、菅総理のブレーンとして、内閣官房国家戦略室員・内閣審議官、2011年11月より富士通総研復職。「国民のためのエネルギー原論」(日本経済新聞出版社)



**鈴木 享** すずき とおる

toru suzuki

自治体職員、生協職員を経て、NPO法人北海道グリーンファンドを設立し理事・事務局長～現在理事長に就任。誰でも無理なく地球環境の保全に貢献できる「グリーン電気料金制度」を開始し、日本初の市民出資型の風力発電事業を行う。市民風車のパイオニアとして、各地の取り組みを支援する。株式会社市民風力発電(2001年)、株式会社自然エネルギー市民ファンド(2003年)を設立し代表取締役を兼務する。北海道地域エネルギー・温暖化対策推進会議委員(2006年度～現在)

